

長安ロダム貯水池機能保全技術会議

(設立趣旨(案))

長安ロダムは、那賀川水系那賀川の中流部に徳島県により洪水調節、発電、既得用水の安定化及び河川環境の保全等を目的として昭和31年に建設された多目的ダムである。

長安ロダムの上流域では、急峻な地形、脆弱な地質とあいまって多雨地帯であるため土砂生産が活発であり、特に昭和51年及び平成16年をはじめとした土砂災害を伴う洪水によって、大量の土砂が長安ロダムへ流入し、ダムの堆砂進行が有効貯水容量の適正な確保に関する大きな課題となっている。

そこで、平成19年度に徳島県より直轄移管し、治水・利水・環境面の機能改善を行う長安ロダム改造事業(以下、「本事業」という)に着手し、本事業の目的の一つである堆砂対策として、堆砂の掘削除去および堆砂除去土砂の下流河川還元を実施しているところであるが、坂州木頭川を中心とした大量の土砂生産に対し、貯水池上流中心の掘削除去かつ公道を通行したダンプ運搬では、現場条件による制約から、長安ロダムの安定的な貯水池機能の保全対策としては課題を有している。

一方で、全国的にも貯水池機能の保全対策の必要性が認識されており、技術的な対応方法や大規模な対策の実現に課題があるものの、さまざまなダムにおいて貯水池の特性に応じた対策事例が蓄積されつつある。

このような背景から、長安ロダムにおける貯水池機能保全対策に関わる自然条件、施設条件、地域的な制約条件などを踏まえた対策の方法、必要な施設に関する内容、および保全対策を実施することによる下流河川への影響について、技術的見知から分析することを目的とし、那賀川において十分な経験を有する学識者と専門家から構成する「長安ロダム貯水池機能保全技術会議」を設置するものである。